

ふれあい つながり かわら版

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120

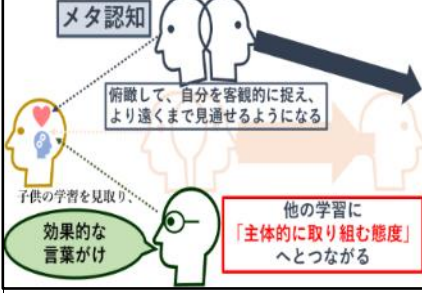
小中一貫教育でつらく
こどもの未来

「主体的に学習に取り組む態度」

小学校では、新学習指導要領による教育の実施に伴い、「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に基づく観点別学習評価が始まりました。今回のかわら版は、その観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」について、その「育成」と「評価」を考えたと思います。

「育成」について(効果的な言葉かけ)

先生方は、これまで、子供が学習に興味を持って取り組めるように様々な工夫をしてきました。工夫により引き出した興味を、次の学びへの主体性につなげるためには、**子供の学習を見取り、効果的な言葉かけ**をすることが欠かせません。なぜなら、子供は教師の言葉かけにより、次第に自ら学習する自分を俯瞰し、先を見通せるようになるからです



「効果的な言葉かけ」は、**「メタ認知」**を促す極めて効果的な取組と言えます。自身の思考や言動を、自身自身で客観的に認知することを「メタ認知」と言います。授業中に考えたことや感じたことを振り返り、記述することは、「学習中の自分の意識」を可視化するという点で「メタ認知」を促す極めて効果的な取組と言えます。

始めは、全然分からなかったけど、〇〇君の意見を参考にして、線を引いて三角形に分けたら、面積を求めることができた。みんなと協力しながら他に方法がないか考えるのは楽しい。

ある授業での振り返り(小5)

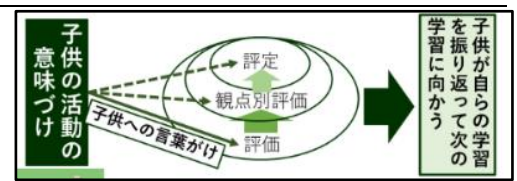
右下の振り返りなどは、まさに、子供自身が「学習中の自分の意識」をメタ認知しています。このように、自分の学びの結果をメタ認知することで、「(あきらめずにやったらできたから)**粘り強く学習に取り組もう**」、「(他の方法を考えると楽しいから)**自らの学習を調整しよう**」といった主体的に学習に取り組む態度の育成につながる事が期待されます。

しかしながら、メタ認知は子供たちにとって容易なことではありません。だからこそ、教師が子供の代わりとなって学習中の意識を取り出し、言葉で伝えることが繰り返す必要があります。先生方の効果的な言葉かけは子供のメタ認知を促し、次の学習にも主体的に学習に取り組む態度の育成へつながります。

「評価」について(言葉かけと観点別評価のつながり)

主体的に学習に取り組む態度の評価については、文部科学省の通知において、「各教科等の観点の趣旨に照らし、(中略)粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価すること」と示されています。ただし、これは、目新しい視点ではなく、これまでの「関心・意欲・態度」の観点別評価も同じ趣旨であったとされています。

先生方はこれまで、粘り強く学習に取り組む姿や、自分で学習を調整しようとする姿を意味づけるような言葉かけ(広い意味での評価)をしてきたと思



います。一方で、このような日頃からの言葉かけが「関心・意欲・態度」の観点別評価につながっていたでしょうか。挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなどで評価することは正しくないと、HP等の公に見られる資料で明確に示されています。

小学校では今年度から、中学校では来年度から新しい評価が始まる今、教科や単元における内容のまとまり毎に、子供が粘り強く学習に取り組もうとし、自らの学習を調整しようとした姿をどのように見取るのか、その手立てや評価規準を考える必要があります。子供が試行錯誤しながら学習する姿を教師が正確に見取り、かけた言葉と観点別評価が一致していれば、**自ずと子供は自分の学習を改善することができるようになります**はずです。

「主体的に学習に取り組む態度」を含む評価全体については、ハンドブックや各教科の参考資料、研修向けの動画など教職員が学びを深めるための材料が充実しています。左にURLを掲載しておりますので参考にしてください。

国立教育政策研究所 (NIER)
【評価の参考となる資料等】
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(各教科)
学習評価の在り方ハンドブック
(URL) <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

独立行政法人教職員支援機構 (Nits)
新学習指導要領に対応した学習評価(小・中学校編)
(URL) <https://www.nits.go.jp/materials/youryou/033.html>
※上記ハンドブックに関する解説等の動画